

JENESYS2018 ASEAN 招へいプログラム第 26 陣の記録

ASEAN ユース・リーダー交流

対象国：ASEAN10 か国、東ティモール

1. プログラム概要

対日理解促進交流プログラム「JENESYS2018」の一環として、ASEAN10 か国（インドネシア、カンボジア、シンガポール、タイ、フィリピン、ブルネイ、ベトナム、マレーシア、ミャンマー、ラオス）及び東ティモールのユース・リーダー（大学生等）107 名が、2019 年 3 月 19 日～3 月 26 日の日程で来日し、「ASEAN ユース・リーダー交流」をテーマとしたプログラムに参加しました。

一行は、東京都を訪問した後、4 つのグループに別れ、グループ A は「観光と食」をテーマとして北海道を、グループ B は「防災技術」をテーマとして宮城県を、グループ C は「ものづくりの歴史と環境」をテーマとして愛知県及び岐阜県を、グループ D は「歴史遺産保護」をテーマとして岡山県を訪問しました。各訪問地では、テーマ関連の施設、地域の企業、名所を視察し、学校訪問、ホームステイや文化体験を通じて、同世代を含む地域の人々との友情を育み、広く日本についての理解を深め、各々の関心事項や体験について SNS を通じて対外発信を行いました。成果報告会では、訪日経験を活かした帰国後のアクション・プラン（活動計画）について発表しました。

【参加国・人数】 11 か国、107 名

（内訳）インドネシア 10 名、カンボジア 10 名、シンガポール 10 名、タイ 10 名、フィリピン 10 名、ブルネイ 10 名、ベトナム 8 名、マレーシア 9 名、ミャンマー 10 名、ラオス 10 名、東ティモール 10 名

【訪問地】 東京都、北海道（21）、宮城県（33）、愛知県・岐阜県（21）、岡山県（32）

2. 日程

- 3 月 18 日（月） 来日（フィリピン、マレーシアのみ）
- 3 月 19 日（火） 来日、【オリエンテーション】
【テーマ関連講義の聴講】 講師：ASEAN 事務局
- 3 月 20 日（水） 【日本理解講義の聴講】 講師：東海大学非常勤講師
アンドラディ 久美 氏
グループ A：【テーマ関連の視察】北海道どさんこプラザ
グループ B：【テーマ関連の視察】防災体験学習（そなエリア東京）・東京臨海広域防災公園
グループ C：【テーマ関連の視察】日本科学未来館
グループ D：東京都から岡山県へ移動、【学校交流】吉備国際大学
- 3 月 21 日（木） グループ A：東京都から北海道へ移動、【テーマ関連の視察】新千歳空港ターミナルビル、【学校交流】北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院

- グループB：東京都から宮城県へ移動、【テーマ関連の視察】石巻市復興まちづくり情報交流館・中央館
- グループC：東京都から愛知県へ移動、【テーマ関連の視察】トヨタ産業技術記念館、ミツカンミュージアム
- グループD：【地域産業の視察】玉島味噌醤油合資会社（倉敷市）、【テーマ関連の視察】きびつるの里、備中国分寺（総社市）倉敷美観地区（倉敷市）
- 3月22日（金）グループA：【テーマ関連講義の聴講】北海道開発局、【テーマ関連の視察】札幌二条市場、【ホームステイ】（札幌市内）
- グループB：【テーマ関連の視察】大川小学校跡地、石巻市街被災地・日和山、【ホームステイ】（石巻市周辺）
- グループC：【テーマ関連の視察】名古屋市南リサイクルプラザ、【学校交流】愛知教育大学、【文化視察】熱田神宮、【ワークショップ（報告会準備）】
- グループD：【表敬訪問】岡山市長、【地域概要の聴講】岡山市、【テーマ関連の視察】岡山城、【文化体験】投扇興（於：後樂園）
- 3月23日（土）グループA、B：【地域住民・関係者との歓送会】、【報告会準備（ワークショップ）】
- グループC：【文化視察】郡上八幡城、郡上八幡博覧館、【ホームステイ】（岐阜県郡上市）
- グループD：【テーマ関連の視察】造山古墳、吉備津神社、【ワークショップ（報告会準備）】、【ホームステイ】（岡山県瀬戸内市）
- 3月24日（日）グループC、D：【地域住民・関係者との歓送会】
各地方から東京都へ移動、【文化視察】浅草、
【ワークショップ（報告会準備）】
- 3月25日（月）【ワークショップ（報告会準備）】、【成果報告会】、【歓送会】
- 3月26日（火）帰国

3. プログラム記録写真

全グループ（訪問地：東京都）

	
<p>3月19日【テーマ関連講義の聴講】</p>	<p>3月20日【日本理解講義の聴講】</p>



3月20日【テーマ関連の視察】
防災体験学習（そなエリア東京）・東京臨海
広域防災公園



3月20日【テーマ関連の視察】
日本科学未来館



3月25日【成果報告会】

【グループA(テーマ：観光と食)】(訪問地：北海道)



3月21日【学校交流】
北海道大学



3月22日【テーマ関連講義の聴講】
北海道開発局



3月22日【テーマ関連の視察】二条市場



3月23日【地域住民・関係者との歓送会】

【グループB（テーマ：防災技術）】（訪問地：宮城県）

	
<p>3月21日【テーマ関連の視察】 石巻市復興まちづくり情報交流館・中央館</p>	<p>3月22日【テーマ関連の視察】 大川小学校跡地</p>
	
<p>3月22日【テーマ関連の視察】 石巻市街被災地</p>	<p>3月22日【テーマ関連の視察】 日和山</p>
	
<p>3月22日【ホームステイ】</p>	<p>3月23日【地域住民・関係者との歓送会】</p>

【グループC（テーマ：ものづくりの歴史と環境）】（訪問地：愛知県、岐阜県）

	
<p>3月21日【テーマ関連の視察】 トヨタ産業技術記念館</p>	<p>3月21日【テーマ関連の視察】 ミツカン ミュージアム</p>

	
<p>3月22日【学校交流】 愛知教育大学</p>	<p>3月22日【テーマ関連の視察】 名古屋市南リサイクルプラザ</p>
	
<p>3月23日【文化視察】郡上八幡城</p>	<p>3月23日【ホームステイ】</p>
<p>【グループD（テーマ：歴史遺産保護）】（訪問地：岡山県）</p>	
	
<p>3月20日【学校交流】 吉備国際大学</p>	<p>3月21日【地域産業の視察】 玉島味噌醤油合資会社</p>
	
<p>3月21日【テーマ関連の視察】 きびつるの里</p>	<p>3月22日【文化体験】 岡山後楽園・投扇興（岡山市）</p>
	
<p>3月22日【表敬訪問】岡山市長</p>	<p>3月24日【ホームステイ】</p>

4. 参加者の感想（抜粋）

【グループA：観光と食】

◆ インドネシア青年

講義では、時間厳守という点に感心し、また日本に関する知識を得ることができました。学校交流では北海道でもハラルフードがあることがわかり、また特にイスラム教徒にやさしいプログラムについて学びました。一番の経験はホームステイでした。日本人のことを詳しく知ることができ、日本の家族と過ごした時間は素晴らしいものでした。日本の家族はインドネシアには2つしか季節がないと知って驚いていました。日本人はこれまでに会った中で最も礼儀正しく親切な人々だと思いました。初めての来日経験で、日本に非常に感心しました。いつかまた戻って来られることを願っています。そして自分の修士の勉強で、日本の食べ物に関わる技術について研究することに、強い関心を持ちました。

◆ マレーシア青年

このプログラムで、訪問地域の日本人と知り合う機会を得ました。ホームステイを通して、マナーや習慣等の日本文化を深く知ることができました。ホストファミリーはとても親切で親しみやすい方々でした。ホームステイ中、いつも日本文化について話してくれました。本物の日本の家庭料理を楽しむ機会もありました。とてもユニークで、日本文化に関してより深く学ぶことができるため、自分にとっては外食以上に興味深いものでした。そして、ホストファミリーと一緒に日本語を学び、なんとか日本語で話そうと頑張るのも楽しかったです。また来日してホストファミリーと再会することを楽しみにしています。

◆ フィリピン青年

国内での多くの変化や発展にも関わらず、自分たちの文化や信念を置き去りにするのではなく維持し続けている日本人の暮らしぶりに非常に驚かされました。ホームステイは日本人について学び理解する素晴らしい機会でした。日本人の暮らしにどっぷり浸かることでこそ、その習慣や姿勢を理解することができると思います。今回のプログラムで、益々日本人が好きになりました。この経験で日本人に対する愛情、日本に対する関心がさらに深くなりました。

【グループB：防災技術】

◆ シンガポール青年

防災技術に関して得た最も強い印象は石巻へ訪れたことでした。2011年の東日本大震災やその被害について学んだことは記憶に残るものであり、大川小学校跡地を見ると状況がいかに一瞬で変わりうるかを思い起こさせられました。しかしながら、そなエリアに行き、大災害が起きた際の日本の対応準備の状況や、その際に市民が安全を確保するために何をすべきかを見ることは、とても印象に残りました。ホームステイは素晴らしい経験でした。ホストファミリーは私たちを非常に歓迎し、伝統的な料理からお風呂に至るまで生活の様子を私たちにを見せてくれました。ホームステイの間に、穏やかな日本人の生活の様子を学ぶことができました。JENESYS2018 はただ観光地を訪れるだけではなく、日本文化や日本人について学ぶ素晴らしい機会だったと感じています。また、他国からの訪日団と知り合い、彼らの国についても学び、日本に対する彼らの印象や考えについても知ることができ、大変有意義な時間を過ごすことができました。ぜひまた日本を訪れたく、そうなることを楽しみにしています。

◆ ブルネイ青年

大川小学校跡地は非常に印象に残りました。悲しい出来事にも関わらず、実際に起きたことをもっともっと知りたいと思いました。世界中から多くの人の支援があり、非常に早い対応ができたことは本当に素晴らしいと思います。ブルネイでは火災訓練しかなく、もっと改善する必要があります。ブルネイでも地震や洪水、他の災害に対して、日本のように訓練をすることが、とても良い考えだと思いました。ホストファミリーとの時間は本当に楽しかったです。私を娘のように扱ってくれましたし、食べ物もおいしく、私もブルネイに戻ったら自分の家族に作ってあげたいと思いました。

◆ カンボジア青年

JENESYS2018 は、参加者に最も大きなインパクトを与えるプログラムの一つだと思います。実際、プログラムを通して私の視野や世界の見方が広がりました。私自身の視点を変え、新しいスキルを学び、そして日本人のようにもっと自己鍛錬に励み勤勉でありたいと思うようになりました。プログラム中は、多様性の中で生活し、異なるバックグラウンドや文化を持つ各国の参加者に会い、時間を共有しました。それにより、各国のライフスタイルや伝統文化、そして言葉を学ぶことができました。また、ホームステイは自分の殻を破るような経験でした。楽しい体験で、自国に持ち帰り、次世代の若者達と分かち合える大きな学びを得ることができました。最も重要なことは、グループのテーマである防災技術に関する視察からの学びです。日本は災害に対する国民の意識を高め、最新技術を用いて防災対策に取り組んでいます。東京臨海防災公園では、安全な避難方法についての知識を得、石巻コミュニティー・インフォメーション・センターでは、東日本大震災と津波について知ることができました。JENESYS2018 は、私の将来への道を明るくし、今までに経験したことのない様々な方法で多くのことを教えてくれたことに感謝します。

【グループC (テーマ：ものづくりの歴史と環境)】

◆ マレーシア青年

最も印象深かったプログラムは、トヨタ産業技術記念館訪問でした。繊維機械等の歴史の変遷や自動車部品等の最新技術を学びました。トヨタグループの革新と創造に深い感銘を受け、また訪問したいと思いました。次に、郡上八幡博覧館訪問では、日本の伝統的なお祭りや踊りに触れることができました。日本の踊りと歴史を学ぶことは大変興味深かったです。最後に、郡上市でのホームステイは忘れられない経験でした。ホストファミリーに大変温かく迎えて頂きました。たくさんのご馳走が用意されており、夕食を頂きながら、お互いの文化を話し合いました。ホームステイの家族の元をもう一度訪れたいと心から願っています。

◆ ベトナム青年

JENESYS2018 プログラムでは、「日本のモノづくりの精神」を学びました。「モノづくり」とは、単に物を作ることを意味するだけではなく、付加価値を生むために発想、エネルギーを取り入れることを意味していました。このモノづくり精神により、日本の製造業は世界の他の産業と一線を画していました。こうした要素が、日本のモノづくりをユニークにし、日本産業を革新的かつ持続可能で、明確なアイデンティティを持つ産業にしました。絶え間ない開発により、主要産業が発展し、その持続可能な企業哲学により長期的スパンにおける産業発展を確実に実現してきました。この二つの要素によって、日本産業は世界の中で最も進んだ産業となり、次世代の未来を確実に創り上げています。全ての日

本国民は、同じ価値観を持ち、共に働く一つの国、一体感でつながっていました。この明確なアイデンティティーは、ある種の糊の働きをして、日本人を一つにつなぎ、グローバル化時代の中でそのユニークさを示していると思いました。

◆ ブルネイ青年

ASEAN 事務局による講義は、大変洞察力に満ちた興味深い講義でした。JENESYS プログラムが如何に ASEAN イニシアチブに貢献しているかを明確に示しました。トヨタ産業技術館とミツカン・ミュージアム訪問は、私たちの課題に沿った訪問の中で最も興味深いプログラムでした。技術と自動車産業において、日本が如何に発展してきたかを学ぶことができました。最も楽しく胸を躍らせたのは、学校交流とホームステイでした。地域の人々と交流し、日本人が如何に生活しているかを経験することができました。こうしたプログラムの中で、新しい友人を作り、日本の家族との絆を得ることができました。個人的には、日本のすべてを経験するには時間が足りなかったし、まだまだ学ぶことがあると感じています。是非日本に戻ってきて、もっと多くのことを経験したいと思います。

【グループD：歴史遺産保護】

◆ カンボジア青年

日本理解講義は深い内容で、これにより日本で過ごす心構えができました。大学生との交流では日本の大学がどのようなものか知ることが出来ました。伝統的な製品を作っている2つの会社を訪問しましたが、思いもよらなかったユニークな方法で製品を作っていました。表敬訪問で岡山市長に面会したことは栄誉なことでした。この市が将来に向かって描いている計画も学ぶことが出来ました。そして一番印象深いプログラムは、ホームステイでした。ホストファミリーの親切で丁寧なおもてなしは期待以上のものでした。私が来たことを本当に喜んでくれていて嬉しかったです。短い時間でしたが強い絆を築くことができ、これからも連絡を取り合えるよう連絡先の交換をしました。彼らの英語の勉強を喜んで手伝おうと思いますし、いつか私の家族みんなと一緒に、美しい日本を訪ねたいと思います。

◆ タイ青年

どの講義も ASEAN と日本の文化、日本人とどのように付き合えば良いかについて学ぶことにとっても役立ちました。岡山市での吉備国際大学と交流プログラムでは、日本人学生が桃太郎伝説を語ってくれ、ゲームや夕食を共に楽しみました。翌日は玉島を訪ね、味噌や醤油の作り方、この地域の経済について学びました。その次の日は造山古墳に行きました。とても雄大な眺めでそこには多くの歴史的な物語がありました。その日の午後にはホストファミリーと会い、夕食を共にしました。本当に居心地の良い家族、家、そして食べ物はおいしかったです。日本の家族が大好きです。お別れはとても悲しかったです。別れ際、泣いてしまいましたが、それはとても良い思い出となった涙でした。

◆ ベトナム青年

日本理解講義は興味深いもので、日本の仕組みや食べ物などについて理解を深めることが出来ました。吉備国際大学の学生たちのオープンな歓迎ぶりには驚きました。とても積極的に、親切に私たちを迎えてくれました。彼らを通じて日本の若者を知る良い機会となりました。玉島での和紙や味噌づくりの会社訪問を通じて日本の伝統産業をより深く知ることができました、長い歴史を持っていて独特の良さを持っていました。岡山市長は多くの職務を抱えている忙しい政治家にも関わらず、とても暖かく気さくに私たちを迎えてくれ

ました。大切なゲストとして迎えてもらったという気がします。今回の日本滞在中で一番心に残ったのはホームステイのホストファミリーにさよならを言った時でした。泣いている人もいましたが、それは幸せと感謝の涙だったと思います。

5. 受入れ側の感想（抜粋）

◆ ホストファミリー（北海道）

学生さんたちに、スキー場を見せてあげられたこと、また、タイミングよく、雪が降ったので、家の前でソリ遊びを体験させることができ、喜んでくれたので良かったです。初めての英語でのコミュニケーションで、不安もありましたが、家族みんなで楽しく交流が出来て自信になりました。

◆ ホストファミリー（宮城県）

大変有意義な2日間でした。食べ物には制限がありましたが、全て「おいしい」と言って食べてくれました。日本の文化、お茶、着物、そしてこの季節ならではの雪には、すごく感動したようでした。

◆ ホストファミリー（岐阜県）

受入れたカンボジア、フィリピン、マレーシアの学生の国について、興味が増してきました。とても良い体験になりました。同じアジアに、共に生きている若者たちとして、親しく、頼もしく思いました。

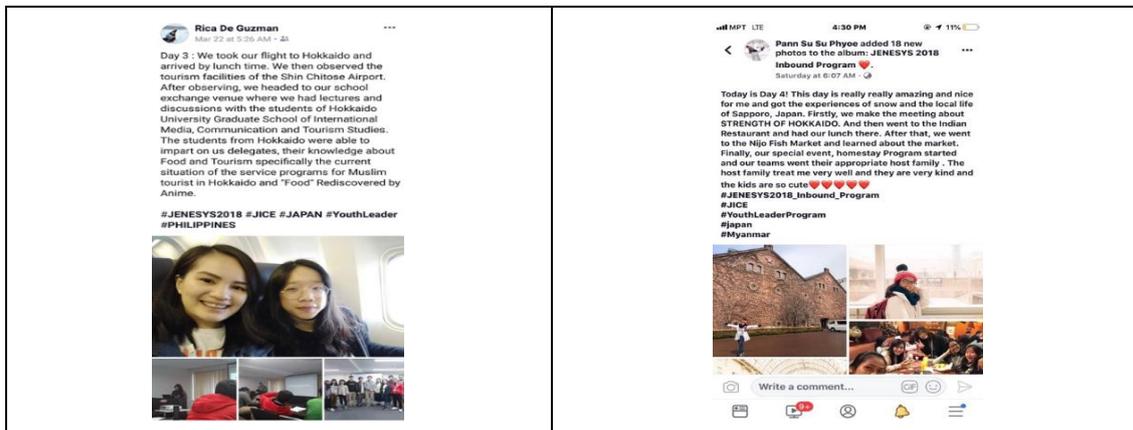
◆ 学生（吉備国際大学）

交流した皆さんは明るくて、とても積極的で、すぐに仲良くなることが出来ました。私たちの質問にも丁寧にこたえてくれたので嬉しい気持ちになりました。アニメをきっかけに日本に興味を持った人がたくさんいて驚きました。学生の皆さんは日本に強い関心を持っていて、日本語を学ぼうとする意志も強く感じました。私は、彼らに刺激を受け、もっと英語を勉強して日本の事をたくさん教えてあげたいと思いました。貴重な体験をありがとうございました。

◆ ホストファミリー（岡山県）

まったく知らなかった東ティモール、今、私の中では最も知りたい、見たい、訪れたい、国になりました。それは、彼女たちの明るく思いやりのある、やさしい行動のおかげです。とてもポジティブで、よく手伝って助けてくれました。素晴らしい人間性を育んだ東ティモールに行ってみたいです。

6. 参加者の対外発信



<p>(グループ A) 北海道へ飛び、新千歳空港の観光施設を視察した後、学校交流の場へと向かいました。北海道大学院大学、国際広報メディア・観光学院では講義及び学生とのディスカッションがありました。日本の学生は北海道の食べ物と観光についてアニメを用いて説明しました。私たちは、北海道で現在行われている、イスラム教観光客へのサービスプログラムを学ぶことができました。</p>	<p>(グループ A) この日はとてもとても素晴らしく、雪、そして札幌の人たちの生活を経験しました。まず「北海道の魅力」に関する講義がありました。それから昼食をとった後、二条市場に行き、市場について学びました。ついに、特別イベントであるホームステイが始まり、私たちのチームはそれぞれのホストファミリーの元へ向かいました。ホストファミリーはとても良くしてくださり、親切で、子どもたちはとても可愛かったです。</p>
 <p>agnesanisa52 Tokyo, Japan</p> <p>いいね! 103件</p> <p>agnesanisa52 glad to be here understanding cross culture is one of the best experience. Thanks God, @kempena, family, all of seniors and friends that always supported me.</p> <p>#Jemesys #Jice</p>	 <p>Saravuth Vongさんが写真40枚を追加しました。 — Sok Sombaさん、Yourann Tepさんと 賢城 石巻市にいます</p> <p>23:53 · 公開</p> <p>Day 4: Places that were hit by Tsunami and Homestay</p> <p>We went to Okawa primary school (Students and teacher was about to evacuated up the hill but they didn't go their move to river direction instead because it was snowing that day, 11 March 2011, so only small number of them survived)</p> <p>Then we went up hill to see the view of the southern part of Ishinomagi city which was badly hit by 25m high Tsunami. Finally we went to homestay and I stayed with Mr. Sasaki's family</p> <p>#Jemesys2018 #JICE #Ishinomagi #OkawaPrimarySchool #KeepGoingIshinomagi #Japan #Cambodia</p>
<p>(グループ B) 日本に、そしてこのプログラムに来ることができて嬉しいです。異文化理解が一番の経験です。神様、家族、先輩、友人、いつも私をサポートしてくれた人たちに感謝しています。</p>	<p>(グループ B) 大川小学校跡地を訪問しました。2011年3月11日、生徒と教師が丘に避難しようとしたのですが、雪が降っていたので川の方向に避難したため少人数しか助かりませんでした。その後、25mの津波に襲われた石巻市南部を一望できる丘の上に行きました。最後にホームステイをしました。</p>
	
<p>(グループ C) 最も美しい町の一つ、水路と名水で有名な岐阜県郡上市を訪問しました。この町は食品サンプル製造の町として有名です。郡上八幡城を見学し、日本の歴史への関心が深まりました。郡上市の景色は、息をのむ美しさです。4月に咲く桜の花を見られなかったことは残念でしたが、幸運にも早春には珍しい雪を経験することができました。</p>	<p>(グループ C) 最大時速 320km の新幹線で一時間半すると、愛知県にあるトヨタ産業技術記念館（創業者豊田佐吉）に到着しました。繊維業から自動車産業へ移行したこと、生産性アップのために自立型ロボットによる自動化を図ったことなどを学びました。</p>



(グループD) 吉備国際大学外国語学部の講師、学生の皆さんに、暖かく迎えていただいたことに感謝します。次回は、日本の文化や ASEAN の文化について、もっと話し合いたいです。ありがとう。

(グループ D) 最初にバスで玉島地区に行き、街歩きの後、玉島味噌醤油工場を見学しました。白神紙商店では機械と手すきの紙を触ってみました。その後、きびつるの里、五重塔を見ることが出来る備中国分寺を訪ね、訪問の最後に倉敷市の大原家によって寄付された大原美術館、新溪園のある倉敷美観地区を訪れました。

7. 報告会での帰国後のアクション・プラン発表（抜粋）



Participants' Journey	Activities	
	Online	Offline
Application Process	<ul style="list-style-type: none"> Q&A sessions via: <ul style="list-style-type: none"> Live on Facebook Instagram Stories 	<ul style="list-style-type: none"> Offline sharing sessions University tour/talk shows
Pre-Trip	<ul style="list-style-type: none"> Buddy program Alumni as ambassadors 	<ul style="list-style-type: none"> Training sessions
During the program	<ul style="list-style-type: none"> Maintain the Buddy Program 	<ul style="list-style-type: none"> Be part of the JENESYS program and do sharing



【グループ A：観光と食】

- ・「日本の文化と食に興味があり旅行したいが不安もある」という観光客のうち、JENESYS 世代の青年や若い世代の親をターゲットにして、詳細な情報を提供します。
- ・日本の魅力を視覚的にアピールする写真やポスターの制作を行い、Facebook で日本の情報を提供し、アンテナショップでの各地の特産品の販売を通じて、日本の魅力を具体的に広める活動をします。

【グループ B：防災技術】

- ・Facebook と Instagram で日本の魅力を発信します。投稿には特定のテンプレートを使用し、日本の魅力やグループテーマである防災技術について発信します。
- ・JENESYS 参加者のネットワークを形成します。四半期に一度、オンライン集会を実施し、機会があれば近隣諸国の参加者同士が実際に会う機会を設けます。
- ・他の者もグループに招待し、JENESYS での経験や情報を共有します。
- ・これから JENESYS プログラムに参加する若者に対しては、応募段階、訪日前、プログラム参加期間の 3 段階を通して、日本の情報提供し、繋がりを作ります。

【グループC：ものづくりの歴史と環境】

- ・ASEAN 諸国と東ティモールの若者に対し、Facebook と Instagram で日本の情報を発信していきます。この活動は、JENESYS2019 年以降 JENESYS に参加する若者たちにとって大きな助けになると思います。
- ・今回の参加者全員が、JENESYS プログラム中の写真やビデオを発信・共有します。日本の文化や経験を盛り込むことで、今後の JENESYS 代表団が JENESYS 同窓会に参加するきっかけにしたいと思います。
- ・ネット上などで同窓会として、参加者同士の活発な交流を実現し、11 か国のネットワークを築きます。また、日本社会・日本文化の情報も広めていきます。
- ・Facebook のメッセージやグループページを活用し、私たちの活動を継続します。

【グループD：歴史遺産保護】

- ・参加者の Facebook を管理し、各国の青年に対し、日本の魅力を発信します。
- ・大学に日本関連のクラブのある参加者は、クラブと協力して JENESYS2018、日本文化、歴史をプロモーションします。日本関連クラブと協力した訪日団は活動の確認のため、写真を管理者に送付します。
- ・東ティモールの参加者は、地方の若者に海外留学、特に日本での留学を奨励します。
- ・各国参加者同士のネットワークを維持するために、グループD、グループA-Dの2つの Facebook を作成、運営します。
- ・私たちの経験の共有、異なる JENESYS 参加者とのネットワークづくりのためミーティングを組織します。